

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ~自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む~						
重点目標		① 自ら学び考える主体的な力を育む。② わかった、できた実感できる授業を展開し、基礎・基本の定着及び活用する力の向上を図る。③ 自己肯定感の醸成に努める。④ 問題行動や不登校生徒の減少に向けた未然防止・早期対応の充実を図る。⑤ ホームページ、Google Classroomを活用し、天王寺川中学校の教育を積極的に発信する。						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成	①授業力向上を目指した授業改善の校内研修会を実施する。	①全国学力調査、学校評価、授業評価アンケート等をもとにわかりやすい授業を目指す。	①授業は「わかりやすく楽しい」と感じる生徒の割合を75%以上にする。	A	①79.8%と目標数値を上回ることができた。ICT機器の効果的な活用方法や、さらに、個に応じた最適な活用を充実させていく。	①引き続き継続して、子どもたちの可能性を引き出すために、個に応じた授業改善に努めていく。	・授業力の向上をめざし授業研究を通して、生きた学びの場を創出する。学力の向上に大きくつなげていくことにより、評価が向上する。②全国学力調査の結果から着実に学力が定着している。③テスト前に課題を済ませておくことで、授業に集中できる。④例え得意科目は選択性でも苦手な科目を重点的に取り組むことで、個に応じた学習ができればいいのではないかと。⑤学校の様子やホームページ等で積極的に発信することにより、保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。⑥土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
		②誰一人取り残さない個別最適な学びを実現する。	②ICT機器を効果的に活用し、個に応じた学びの場を創出する。	②「先生は、教方に工夫をしている」と感じる生徒の割合を90%以上にする。	A	②94.4%と目標数値を上回ることができた。継続して、生徒の探究心を高めるための授業改善に努めていく。	②引き続き継続して、ICT機器の効果的な活用方法を見つけていく。	・ICT機器の活用や英語教育の充実が生徒の学びたい意欲につながっていることが大きい評価できる。③保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
	③家庭・地域や校区内のご小中学校と連携し、学力向上、学びに向かう力を推進する。	③校区内のご小中学校や家庭との連携を推進する。地域の協力を得て、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校より等を通して、本校の様子を発信する。	③校区内のご小中学校の合同研修会を年1回実施する。土曜スクールを年12回実施する。また、ホームページを10回以上、学校よりや学年よりを4回以上発行する。子どもたちが学習に向かえるように保護者にも普及の宿題においても情報共有する。また、教室内のホワイトボードを活用し宿題を明示する。	③校区内のご小中学校の合同研修会を年1回実施する。土曜スクールを年12回実施する。また、ホームページを10回以上、学校よりや学年よりを4回以上発行する。子どもたちが学習に向かえるように保護者にも普及の宿題においても情報共有する。また、教室内のホワイトボードを活用し宿題を明示する。	A	③校区内のご小中学校の合同研修会を実施することができた。土曜スクールを年12回実施することができた。ホームページを平均4.4回更新することができた。学校よりや学年よりを平均13.5回発行することができた。	③引き続き継続して、ごまめに①学校よりや学年よりの発行、②家庭連絡や家庭訪問、③ホームページの更新、④ホームページの充実やGoogle配信、⑤放課後学習や土曜学習等の補習学習、⑥PTAとの合同研修会を行い、保護者や地域と情報共有を図っていく。	・学校の様子やホームページ等で積極的に発信することにより、保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
	④学校・家庭・地域の連携	④保護者や地域の方との連携を推進する。地域の協力を得て、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校より等を通して、本校の様子を発信する。	④保護者や地域の方との連携を推進する。地域の協力を得て、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校より等を通して、本校の様子を発信する。	④保護者や地域の方との連携を推進する。地域の協力を得て、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校より等を通して、本校の様子を発信する。	A	④保護者や地域の方との連携を推進する。地域の協力を得て、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校より等を通して、本校の様子を発信する。	④引き続き継続して、ごまめに①学校よりや学年よりの発行、②家庭連絡や家庭訪問、③ホームページの更新、④ホームページの充実やGoogle配信、⑤放課後学習や土曜学習等の補習学習、⑥PTAとの合同研修会を行い、保護者や地域と情報共有を図っていく。	・学校の様子やホームページ等で積極的に発信することにより、保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
「豊かな心」の育成	①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①ICT機器を使用した情報活用能力の向上を目指し、積極的にICT機器を活用する。	①教職員及び生徒が、ICT機器を使用し、調べた内容を資料にまとめることができるようにする。	①75%以上の生徒がICT機器のアプリを使用し、効果的にプレゼンテーションが出来るようにする。	A	①全国学力・学習状況調査では、ICTの活用は91.1%の生徒が毎日使用していると回答し、目標数値を上回ることができた。	①学習内容を深め、学力向上を図るための効果的な活用について研究を推進する必要がある。	・ICT機器の活用や英語教育の充実が生徒の学びたい意欲につながっていることが大きい評価できる。③保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
		②英語教育の充実を図り、グローバル化に活躍できる人材を育成する。	②グローバル社会に通用できる英語教育(読む・書く・話す)を充実させる。	②CEFRによるA1レベルを全国平均以上に上げる。	A	②3年生でCEFRのA1レベルが136人だった。全国平均を上回る54%の3年生がCEFRのA1レベルに到達することができた。	②英語教育(読む・書く・話す)の充実を図り、グローバルに活躍できる人材を育成する。	・ICT機器の活用や英語教育の充実が生徒の学びたい意欲につながっていることが大きい評価できる。③保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
	③デジタル社会を見据えた教育を推進する。	③タブレット端末を有効に活用するために、授業や家庭学習において、AIドリルやデジタル教科書を効果的に活用する。	③タブレット端末を有効に活用するために、授業や家庭学習において、AIドリルやデジタル教科書を効果的に活用する。	③毎日授業のライブ配信を行う。また、AIドリルまたはデジタル教科書を毎時間授業で活用する。	A	③授業のライブ配信の整備が遅れたが、すべての学年でライブ配信を行うことができた。AIドリルやデジタル教科書の効果的な活用を検討する必要がある。	③授業のライブ配信による学習支援を推進し、一人一人の学びの場を充実させる。また、AIドリルやデジタル教科書の効果的な活用を検討する必要がある。	・ICT機器の活用や英語教育の充実が生徒の学びたい意欲につながっていることが大きい評価できる。③保護者や地域の方から関心を持っていただいている。来年度も継続した取り組みを期待する。④土曜学習の先生方を含め、様々な指導に感謝する。とくに、3学期に3年生対象に面接練習をしてくださったことは、生徒に大きな自信を与えてくれたことと、先生方による指導の丁寧さに感謝している。
「豊かな心」の育成	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応にのりこめ ③不登校の予防止に努める。	①「考え、議論する道徳」及び「心の教育」を推進する。	①道徳教育を充実させるために、道徳のローテーション授業を行い、道徳教育における指導力の向上に努める。また、必要に応じて、思いやりや心遣いなどに関する学習を徹底していく。	①「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらった」と答えた生徒の割合を80%以上に上げる(A評価で50%以上に上げる)。	B	①自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらった」と答えた生徒の割合が93.5%で、目標数値を達成することができた。	①今後も道徳のローテーション授業を実施し、教員の指導力向上を図り、すべての教育活動を通して、思いやりの心を育んでいく。また、道徳・人権教育講演会を実施し、外部人材による教育の推進を図っていく。	・いじめや不登校の問題について学校全体で取り組み、生徒の自尊感情の醸成に取り組んでいることは評価できる。今後、さらに子どもたちの心に寄り添う教育を期待している。②現在の不登校の形態は密やかに、個々の子どもたちの実態把握を密に行い、各々の子どもたちの課題に合わせた具体的な支援体制の構築を希望する。
		②いじめ問題への対応力の向上に取り組む。	②いじめアンケートや教育相談アンケートを行うことで、いじめの早期発見に向けて取り組む。	②「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合を前年度以上に上げる。	B	②「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒の割合が前年度81.8%で、今年度は83.3%だったため、目標数値を達成することができた。	②いじめの未然防止、早期解消に向けた取り組みを継続していく。	・いじめや不登校の問題について学校全体で取り組み、生徒の自尊感情の醸成に取り組んでいることは評価できる。今後、さらに子どもたちの心に寄り添う教育を期待している。②現在の不登校の形態は密やかに、個々の子どもたちの実態把握を密に行い、各々の子どもたちの課題に合わせた具体的な支援体制の構築を希望する。
		③不登校の予防止に努める。	③不登校対策支援チームをつくり、体制の充実や心の居場所のある学校づくりに努める。また、必要に応じてSCやSSWなどの関係機関と連携する。	③「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談のしてくれている」という生徒の割合を90%以上に上げる。	B	③「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談のしてくれている」という生徒の割合が90%以上だったため、目標数値を達成することができた。	③多様な課題を抱える生徒に寄り添った適切な対応を期待している。また、研修会を通して、カウンセリングの研修を充実していくことで、教員が対応し、生徒と向き合う時間を確保していく。	・いじめや不登校の問題について学校全体で取り組み、生徒の自尊感情の醸成に取り組んでいることは評価できる。今後、さらに子どもたちの心に寄り添う教育を期待している。②現在の不登校の形態は密やかに、個々の子どもたちの実態把握を密に行い、各々の子どもたちの課題に合わせた具体的な支援体制の構築を希望する。
「豊かな心」の育成	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①運動の習慣化を図る。	①主体的に体力向上に取り組む生徒を育成する。	①体力・運動能力、運動習慣等調査で男女とも全国平均以上に上げる。	B	①体育の授業や、運動部の充実等により、全国平均を男子は9.84ポイント、女子は3.7ポイントを上回ることができた。	①主体的に運動に取り組む生徒の育成に向け、運動の楽しさを感じる工夫のある授業改善に努める。また、運動習慣や生活習慣の大切さを発信していく。	・アンケート結果から数値が減少した傾向もあるが、取り組みとしては適切であるとする。②地域活動については、生徒がやりがいを持って取り組める環境の提供を期待している。また、今年度の取り組みをさらに充実させ、天王寺川中学校ならではの体力維持向上システムが継続していくことを期待する。
		②部活動の活性化を図る。	②充実させる内容(目標)を各部活動で持たせ、活動していく。部活動で学んだことが、実生活に役立っていることを実感させる。	②「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上に上げる。	B	②89.1%で、0.9ポイント目標数値を下回った。	②地域部活動が進み、スポーツや文化芸術活動に関心をもつことができる機会を確保していく。	・アンケート結果から数値が減少した傾向もあるが、取り組みとしては適切であるとする。②地域活動については、生徒がやりがいを持って取り組める環境の提供を期待している。また、今年度の取り組みをさらに充実させ、天王寺川中学校ならではの体力維持向上システムが継続していくことを期待する。
		③規則正しい生活習慣の獲得を図る。	③生徒が自ら、生活リズムについて意識を高めさせる。また、早起き・朝ごはんについて家庭と連携する。	③規則正しい生活習慣を送っているという生徒の割合を80%以上に上げる。	B	③77.2%で、2.8ポイント目標数値を下回った。計画的に家庭学習する時間や、適切なスマホの利用習慣等について指導していく必要がある。	③「早起き・朝ごはん」及び、規則正しい生活習慣について、学校よりや保健だより等を活用して発信し、継続して指導していく必要がある。	・アンケート結果から数値が減少した傾向もあるが、取り組みとしては適切であるとする。②地域活動については、生徒がやりがいを持って取り組める環境の提供を期待している。また、今年度の取り組みをさらに充実させ、天王寺川中学校ならではの体力維持向上システムが継続していくことを期待する。
教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①主体的な進路選択を支援する。	①保護者と連携し、個に応じた能力・適性・実態を踏まえた進路指導を行う。	①「学校は、進路について情報を保護者に伝えるとともに、適切な進路指導を行っている」と感じる生徒の割合を80%以上に維持し、その中でもよきあてはまるを30%以上に上げる。	B	①83.5%で、目標数値を上回ることができた。また、あてはまる割合は31.6%とも目標数値を上回った。さらに、全学年80%以上を上回ることができた。	①ホームページや進路通信等を通して保護者に進路情報を伝えるとともに、一人ひとりの進路を見据え、きめ細やかな個別の指導を行っていく。	・学校の教育相談システムを向上させるため、スクールカウンセラーや関係機関との連携を密にし、取り組みを今後期待する。②生徒への支援体制を充実させるために支援員等のさらなる配置を市教委に要望する。③多様な状況を抱えている中、中学校を卒業した後の進路に様々な可能性があることは大きな励みである。今後、中学校から積極的に進路に関する情報提供を期待する。
		②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。	②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと積極的に連携する。	②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、不登校生の割合を前年度以下を年間で達成する。	B	②不登校発生率が前年度比34%削減することができた。	②学校が安全、安心な居場所づくりに努める。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、誰一人取り残さない教育を推進する。	・学校の教育相談システムを向上させるため、スクールカウンセラーや関係機関との連携を密にし、取り組みを今後期待する。②生徒への支援体制を充実させるために支援員等のさらなる配置を市教委に要望する。③多様な状況を抱えている中、中学校を卒業した後の進路に様々な可能性があることは大きな励みである。今後、中学校から積極的に進路に関する情報提供を期待する。
		③教育相談を充実させる。	③教師間の情報交換、情報共有を密に行う。すべての教育活動を通じて、生徒の自己肯定感、自己有用感の醸成に努める。	③「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談のしてくれている」という生徒の割合を90%以上に上げる。	B	③昨年度86.2%、今年度88.1%で、昨年度よりも増加したが、目標数値を1.9ポイント下回った。	③教育相談期間を増やしていく。また、積極的に生徒の様子を観察したり、声かけを行ったりしていく。	・学校の教育相談システムを向上させるため、スクールカウンセラーや関係機関との連携を密にし、取り組みを今後期待する。②生徒への支援体制を充実させるために支援員等のさらなる配置を市教委に要望する。③多様な状況を抱えている中、中学校を卒業した後の進路に様々な可能性があることは大きな励みである。今後、中学校から積極的に進路に関する情報提供を期待する。
特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校と連携する ②伊丹特別支援学校の活性化 ③特別支援教育の充実	①伊丹特別支援学校と連携する。	①特別支援学校の生徒との交流及び、共同学習が相互に理解を深める。	①事前打ち合わせを十分に行い、年2回交流を行う。また、適宜コンサルテーションを活用する。	A	①年2回の交流を行うことができた。また、年2回、コンサルテーションを行い、専門的な対応が図れた。	①引き続き継続して、年2回の交流を。また、コンサルテーションを活用し、一人ひとりの生徒に対するきめ細やかな適切な対応に努めていく。	・特別支援教育推進委員会の開催により支援を必要とする生徒に対して合理的な配慮が進められる教育環境の整備を期待する。②校区内に特別支援学校があることを強みとして、コンサルテーション等を通して教職員の特別支援教育に関する知識の習得に努めてほしい。③校区の小学校と交流について効果的なあり方を検討してほしい。
		②伊丹特別支援学校の活性化	②特別支援教育推進委員会の体制を整え、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を充実させる。	②特別支援教育推進委員会を月に1回開催する。	A	②特別支援教育推進委員会を月に1回開催することができた。	②すべての生徒の学びを支えるため、積極的に生徒と保護者との合意形成や、教師間の共通理解を図り、合理的配慮に努めていく。	・特別支援教育推進委員会の開催により支援を必要とする生徒に対して合理的な配慮が進められる教育環境の整備を期待する。②校区内に特別支援学校があることを強みとして、コンサルテーション等を通して教職員の特別支援教育に関する知識の習得に努めてほしい。③校区の小学校と交流について効果的なあり方を検討してほしい。
		③特別支援教育の充実	③特別支援教育推進委員会の体制を整え、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を充実させる。	③特別支援教育推進委員会を月に1回開催する。	A	③特別支援教育推進委員会を月に1回開催することができた。	③すべての生徒の学びを支えるため、積極的に生徒と保護者との合意形成や、教師間の共通理解を図り、合理的配慮に努めていく。	・特別支援教育推進委員会の開催により支援を必要とする生徒に対して合理的な配慮が進められる教育環境の整備を期待する。②校区内に特別支援学校があることを強みとして、コンサルテーション等を通して教職員の特別支援教育に関する知識の習得に努めてほしい。③校区の小学校と交流について効果的なあり方を検討してほしい。
教職員の資質向上	①研修等の充実	①校内外で研修に努める。	①校内外の研修会に積極的に参加する。	①校内外の研修に平均10回以上参加する。	A	①校内外の研修に平均12.5回に参加することができ、昨年度より1.9ポイント上昇した。	①主体的に学び続けられるように、年間研修計画等を作成する。また、職員が積極的に参加しやすい回数・内容等を精選していく。	・本年度の成果を踏まえて、教職員の資質の向上に向けて、校内の研修体制を構築し、主体的で深い学びが習得できる研修計画を策定することを期待する。
		②校内研究授業、アップデート研修を実施し、指導力向上を図る。	②校内研究授業、アップデート研修を6回実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。	②校内研究授業を2回、アップデート研修を6回実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。	A	②校内研究授業を2回、アップデート研修を8回開催することができた。	②授業力及び、指導力の向上につながるよう校内研修、アップデート研修の充実を図る。	・本年度の成果を踏まえて、教職員の資質の向上に向けて、校内の研修体制を構築し、主体的で深い学びが習得できる研修計画を策定することを期待する。
		③校内研究授業、アップデート研修を実施し、指導力向上を図る。	③校内研究授業、アップデート研修を6回実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。	③校内研究授業を2回、アップデート研修を6回実施し、OJTを活かした指導力向上を図る。	A	③校内研究授業を2回、アップデート研修を8回開催することができた。	③授業力及び、指導力の向上につながるよう校内研修、アップデート研修の充実を図る。	・本年度の成果を踏まえて、教職員の資質の向上に向けて、校内の研修体制を構築し、主体的で深い学びが習得できる研修計画を策定することを期待する。

教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①コミュニティ・スクールの充実を図る。 ②地域・保護者との連携を図る。	①学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実を図る。 ②PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。	①学校運営協議会を年3回開催し、生徒、保護者、地域の希望に応え信頼される学校運営を行う。 ②「保護者や地域の人とともに積極的に活動している」の教師の割合を75%以上にする。	B	①『天中 夢サミット』を含め、学校運営協議会を年5回開催することができた。 ②コロナ等の影響もあり、69.45%と目標数値を下回った。今後の活動の仕方について検討する必要がある。	①学校運営協議会を年3回以上開催するとともに、熟議した内容を職員と共有し、学校運営に反映していく。 ②生徒たちと地域の一員である自覚を育むためにも、PTAなどと協議しながら、今後の地域との関わりのある行事や活動を検討していく。	・学校運営協議会の認知度が市内においても広げて行くことが課題になっている。運営協議会の協議内容を職員や保護者及び地域と共有できるようにシステムの構築が必要である。 ・「天中夢サミット」では生徒の主体的な活動を感じる事ができた。 ・地域との関わりで、生徒のアイデアを活かしながら主体的な活動ができる機会が増えていくことを期待する。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①防犯訓練・防災教育の充実を図る。 ②安全・安心な教育環境の充実を図る。 ③子どもの交通安全対策の充実を図る。 ④学校施設の整備体制を整え、維持保全に努める。 ⑤働き方改革を、より一層推進させる。	①危機管理マニュアル等を活用し、的確な防災教育を実施する。 ②感染症対策、熱中症対策等の充実を図る。 ③生徒一人ひとりが正しい交差点ルールを理解し、交通安全に努める。 ④それぞれの場所において、環境設備を点検する。	①防犯や災害が発生した際の対応を身に着けるため、年2回の避難訓練を実施する。 ②熱中症対策及び感染症対策の見直しや協議を行うため、検討委員会を5回以上実施し、未然防止及び初期対応の充実を図る。 ③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらっている」の生徒の割合を90%以上にする。 ④それぞれの場所において、月1回破損箇所や修理の必要な箇所を点検する。	B	①防犯や災害が発生した際の対応を身に着けるため、年2回の避難訓練を実施することができた。 ②新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、検討委員会を廃止した。 ③95.2%で、目標数値を上回ることができた。すべての生徒に身に付けていく必要がある。 ④それぞれの場所において、月1回破損箇所や修理の必要な箇所を点検を行うことができた。また、美化活動を推進するために、清掃用具の充実が必要である。 ⑤時間外勤務の月60時間以上の教員を1割削減することができた。また、業務改善委員会を3回開催することができた。また、特定の職員に校務分掌が偏りが見られた。	①年2回の避難訓練の他、地震対策や不審者対応等も身につけていく。 ②保健室からの情報発信を中心として、熱中症や感染症対策を徹底していく。 ③交通安全教室の実施時期等の見直しを行う。また、様々な機会を通して交通ルールの遵守等について指導していく。 ④引き続き継続して、生徒にとって、安全・安心な学校づくりを推進していく。また、美化活動を充実させるために、清掃用具を整備していく。 ⑤分掌のメンバーや学年職員同士で共助の精神を涵養していく。また、OJTを機能させ、業務の適正化とスクラップを図っていく。	・いつどこで生徒が災害に巻き込まれるのかわからない。日々の生活の中で想定される場面を想像した防犯防災教育の推進を期待する。 ・道路交通法の改正で自転車に関することが取り上げられている。学校の教育活動全般において自転車を含めた徹底した交通安全に関する指導を期待する。 ・職員の働き方改革と生徒へのきめ細やかな指導は相反するものである。先生方の負担をなくすために改革が必要なことについては積極的に取り組んでほしい。 ・校務分掌など一部の教師に偏りが出ないように、グループやチーム体制での業務も効果的に取り入れていくことが必要である。

いつも天中生のために全力を注いでいただいていることに感謝する。校長先生のリーダーシップのもと、学校教育目標の具現化に向けての先生方の取り組みに感謝している。生徒が明るく素直に勉学に励んでいる姿を目を細めながら見ているが着実に学校力が向上してきていることを実感している。今後とも、将来の日本を支えてくれる人材を立派に育成していただくことを期待する。本年度の学校評価については大いに評価している。特に主体的で深い学びを推進していくため、生徒の学力の向上に積極的に取り組んでいたことは大いに評価できる。義務教育の最後の3年間、何らかの形で社会に出て行く生徒たちにとって、自ら考えたり、課題を見いだしたりして主体的に深い学びを得ることは必要不可欠である。生徒一人ひとりの抱える悩みなども複雑化、多様化しているなかではあるが、職員一丸となって研修を進めながら教育活動に当たっていくことを期待している。

3年生が卒業式に「天王寺川中学校の生徒でよかった」と実感できるように、来年度も本年度の成果と課題を検証し生徒の実態を踏まえて「誰一人取り残さない」教育の推進に取り組むことを期待する。

次年度に向けた重点的な改善点

本校の教職員とともに一丸となって、子どもたちにとって、学校が『心の居場所』となる『魅力ある学校づくり』に努めてまいります。そのためには、「学力向上」「不登校の未然防止」と、先行き不透明で予測困難な時代を生きる子どもたちにとって必要不可欠な「人間力」「つながる力」を育成してまいります。また、学校運営協議会で熟議を重ね、「子どもの最善の利益」を視野に入れた教育を推進してまいります。そして、子どもたちにとって「毎日、行きたい学校」、保護者にとって「毎日、通わせたい学校」、教職員にとって「働きがいがあり、自分自身の能力を十分に発揮できる働きたい学校」、さらに、地域にとって「誇れる学校」になるよう努めてまいります。

<学力向上>

子どもたちがこれからの未来を逞しく生き抜くための「確かな学力」の定着を図ります。そのためには、教師の授業力・指導力を向上させることはもちろんのこと、「DX化の推進」「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を図ります。また、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進します。さらに、家庭・地域との連携を進め、家庭学習の定着及び土曜スクールや放課後学習の充実を図ります。

<不登校の未然防止>

わかる授業や感動のある行事等を通して、子どもたちの自己肯定感や自己有用感の醸成を図ります。そして、すべての教育活動を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、誰一人取り残さないように、学校が子どもたちにとっての「心の居場所」となるよう努めます。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った